

135. 「釣り四話」 前編

技術戦略部次長 圓谷 秀夫

第壹話「太公望と覆水不返」の話

紀元前 11 世紀、中国は殷の時代の話です。

後の周の文王となる西伯という人が、ある日のこと、渭水（黄河の支川）で釣りをしている人に出会い、その釣り人と語り合ううちに見識を見出し、「あなたは、私の祖父・太公の時代から待ち望んでいた人物です」と言い家に招きました。その日以来、西伯のブレーンとして活躍し、殷に次いで天下を取った周の政策立案に関与し、国の繁栄に大いに貢献したそうです。

ちなみに、釣り人の本名は呂尚と言います。

“太公望”とは“太公が望んでいた人”＝“渭水で釣りをしていた人”で、今では釣りをこよなく愛する人、釣りキチのような意味です。私も太公望の一人です。

さて、この呂尚にはもう一つ有名な話があります。

呂尚は西伯に会うまでかなりの貧乏暮らしで、妻は愛想をつかし実家に逃げてしまったほど、しかし西伯に会って運が開けるとどんどん出世し、なんと元妻が復縁を願って来たそうです。呂尚は、お盆に入れた水を庭にこぼし、彼女に「この水を元の盆に戻せたら復縁する」と言ったそう、結果は明白ですよ。一度別れた夫婦は元に戻ることはないという意味で、後悔先に立たずの意味にも使います。

これが四字熟語「覆水不返」・・・“覆水盆に返らず”の出展です。

第貳話「一生幸福になるには釣り！」の話

一日幸福でいたかったら床屋に行きなさい。一週間幸福でいたかったら結婚しなさい。一ヵ月幸福でいたかったら良い馬を買いなさい。一年幸福でいたかったら新しい家を建てなさい。一生幸福でいたかったら釣りを覚えなさい。という話を聞いたことがありますか。元々は“釣り”ではなく“正直でいなさい”とか、諸説あるようです。

床屋で顔剃りをしてもらうときは本当に気持ちが良いものです。しかし、いつも気になるのですが（関西の床屋が多く、関東は少ないです）、洗髪の際に「痒いところありますか？」と聞いてくれるのは良いけど、「いいえ、大丈夫」としか答えられません。一度で良いから「全部！」と言ってみたいと思うのは私だけでしょうか。

結婚してそろそろ 30 年、家を持って 11 年になりますが、家族皆が健康でいられるので、まあ幸福と言えるのでしょうか。馬については、購入はもとより競馬をやったことがないのでノーコメント、元は移動手段～現代の車～の意味、それとも、食べる対象でしょうか。

さて、一生ものの釣りですが、これはまさに言い当てています。釣り好きの人は皆頷けることと思います。私は小さい頃、父に連れられ仙台市近郊の沼や堀で釣りをしたのを起源に、途中休憩の時期がありましたが、今では黒鯛やスズキをメインに中～大型をねらう自称釣師です。釣れた時はもちろん、釣れないときも楽しいもので（本当は悔しいのですが）、年金暮らしになってもずうっと続けていくことと思います、まさに一生幸福になるのは釣りなのです。

・・・後編に続く